

第91回 ISO/TMB (技術管理評議会) 結果報告

経済産業省 イノベーション・環境局

国際標準化交渉官

猿橋 淳子

令和6年10月30日

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（1）

● 任務

● ISO規格作成に関する管理事務的事項

- ✓ TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、ISO/IEC
専門業務指針の改訂等

● ISO規格作成に関する戦略的事項

- ✓ 規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの審
議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（2）

● メンバー（出席者）

● TMB議長: Mr Javier GARCIA Diaz（西）

● TMBメンバー(15名) :

Ms. Atsuko Saruhashi (日), Mr. Steven Cornish (米),

Ms. Petra Scharf (独), Mr. Franck Lebeugle (仏), Ms. Amanda Richardson (英),

Ms. Yubing Li (中) , Mr. Young Jun Moon (韓) ,Mr. Chandan Bahl (印),

Ms. Chantal Guay (加), Mr. Jorge Cazajiera (伯), Ms. Karen Batt (豪),

Mr. Zacharia Lukorito (ケニア), Ms. Maria Skou (デンマーク) ,

Mr. Marcel Knecht (スイス) , Ms. Merete Holmen Murvold (ノルウェー)

● ISO中央事務局 :

Mr. Marco Rossi (部門長), Mr. Antoine Morin TMB事務局長ほか

● オブザーバー :

Mr. Vimal Mahendru (IEC/SMB議長), Mr. Gilles Thonet (IEC/SMB事務局長)

Ms Karin Lindmark (スウェーデン/次期TMBメンバー)

報告・決議事項

※本資料は決議を要約していますので、正式なものは英語版でご確認ください。

【決議 84/2024】 マネジメントシステム規格 合同技術調整グループからの推奨事項

Joint Technical Coordinating Group on Management Systems
Standards Recommendations

<決議要約>

- Type A MSS（要求事項）は、国際規格（IS）に限定し発行しなければならない（即時有効）
- Type B MSS（ガイダンス）をType A に関する「ガイダンス」文書に限定しない（柔軟性を保持）
- 調和された構造（Harmonized Structure : HS）の使用は、現在の方針を維持
- 本決議により影響を受ける既存のMSSと委員会を特定し、その対応策を、2025年3月のTMB承認のために、JTCGに提出させる。

<背景>

- JTCGは2006年にTMBによって設立。2024年3月のTMBワークショップでMSSのガバナンス、構造、形式の近代化に関し、TMBに複数の勧告を行った。
- MSS関連のISO/IEC Directives 附属書 SLの改訂に係る、JTCGからの勧告は以下のとおり。
 1. Type A をISに限定する
 2. Type B をType A の使用、適用または実施に関するガイダンスの提供に限定する
 3. Type A 及びType B の両者にHSを適用する

<審議内容> 議題5.6.1

- Type AのないType Bのみが存在するケースがあるため、2.の実施は難しい。
- Type Bの可能性や柔軟性を狭める必要はなく、3.の実施は難しい。
- JTCG の勧告 3つのうち、1のみ承認。2, 3は承認しないことが妥当。

【決議 85/2024】 ISO 19338 との整合に関する国家及び地域規格の見直しに関する ISO/TC 71/SC 4 委員会独自の手順の提案

ISO/TC 71/SC 4 Committee specific procedure proposal to review national and regional standards for alignment with ISO 19338

＜決議要約＞

- ISO 19338 との整合に関する国家及び地域規格の見直しに関する ISO/TC 71/SC 4（構造コンクリートの要求性能） 委員会独自の手順の提案を承認
- TMB の懸念事項について ISO/TC 71/SC 4 に検討を求める

＜背景＞

- ISO 19338(構造用コンクリートの設計標準のための性能及び評価要求事項)では、これまで、“委員会独自の手順”(CSP)として、各国規格がISO 19338に合致することを評価してきたが、TMBは第三者による評価と責任リスクに係る懸念があると指摘。
- 指摘に対し以下の修正をしたが、TMBの再度の指摘により、適合性に関する文言を削除。
 1. 潜在的な責任に関する懸念に対処するために免責事項を追加
 2. 現在のCSPの文言を「承認」や暗黙の同意ではなく「適合」を示すよう修正
 3. 「満たしているとみなされる」文書リストを、より包括的な「審査済み」リストを示すよう修正
- 今回、ISO 19338の改正もあり、改めてCSPについて、TMBでの議論となった。

＜審議内容＞ 議題 6.2.1

- 国家規格をTRに入れたりしているケースもある。CSPという一般的ではない方法を取る必要はあるか？
- リストが信頼性のあるものとはいえないのではないか。掲載できていない規格があるかもしれない。

【 決議 86/2024 】 アーユルヴェーダとヨガに関するTS/P提案のレビュー

Review of TS/P proposal on Ayurveda and Yoga

<決議要約>

- ISO会員団体投票を実施し、承認された場合、提案を ISO/TC 249 に割り当てることを決定
 - ISO/TC 249 の名称を「伝統医療」に変更し、業務範囲を改訂する
 - ISO/TC 249 のもとに「伝統的中国医療」のSCと「アーユルヴェーダとヨガ」の SC を設立する
- スポーツ用具に関する標準化業務は ISO/TC 83 内で実施することを確認

<背景>

- インド(BIS)は2024年1月「アーユルヴェーダとヨガ」に関する新分野の標準化活動のTC設置を提案。
- 提案内容は、ISO/TC 83（スポーツその他のレジャー施設及び用品）とISO/TC 249（伝統的中国医療）における適用範囲の重複が指摘された。
- BISは適用範囲を調整したが、未解決の乖離があるとTMB事務局は判断。そこで、提案をISO/TC 249へ統合し、伝統医療・統合医療をより広くカバーする形としたうえで独自のSCの設立を検討した。

<審議内容> 議題 6.3.1

- アーユルヴェーダとヨガは伝統的インド医療にに包括されるのか。→ 医療だけではなく、活動も入る
→ アーユルヴェーダとヨガを分離はしない方がいいということは理解。
- 他の国にある伝統的医療も含められるような決議が必要。ステークホルダーの違いも考える必要あり。
- 今後、新しいTC提案が来た場合、まずは既存のTCに入れることを第一にすることも考えるべき。
- TC側が拒絶するということは考えず、TMBが決議し、スコープの拡大やタイトルの修正を行わせる。

【決議 87/2024】革新的な港湾及びターミナルに関するTS/P提案のレビュー

Review of TS/P proposal on Innovative Ports and Terminals

<決議要約>

- ISO 会員団体投票を実施し、承認をされた場合、提案を ISO/TC 8 に割り当てることを決定
- ISO/TC 8 の名称と業務範囲を改訂し、港湾及びターミナルに関する SC を設立する

<背景>

- 2024年1月にSAC（中国）より「Innovative Ports and Terminals：革新的な港湾及びターミナル」に関する新規のTC設置の提案あり。
- 2024年7月までTMB事前コンサルテーションにかけられたところ、既存のTCとの重複等に関してコメントが寄せられ、①新規にTCを設立する、②ISO/TC 8(船舶及び海洋技術)に割り当てる、の2案について検討されることとなった。

<審議内容> 議題 6.3.2

- InnovativeやSmartなどの形容詞はやめる方向にすべき。
- Coherence and Coordination（一貫性と調整）の考え方を踏まえ、まずは既存のTCに入るべき。TC 8は国際幹事が中国。スコープ/タイトルの変更は必要であるが、協力・協調はできるのではないか。
- TC 8は400以上の規格がある大きな委員会であり、インターフェースはあるものの、陸上と海上で異なっている。TC 8は、船のマネジメントなどをやっており、港湾の建設やサービス・労働者の環境に関して対応したいTCとは異なる。やりたいこと、専門家も異なっているため、新TCが適切。
- 古いTCも前向きにInnovativeに議論をするように戦略を変えていくべき。世界がInnovativeな方向に議論をするようになっている。

ワンポイントメモ：組織名

一般的に以下のように分類。

- **TF**(Task Force): TMB自らがメンバー。短期間で活動。
- **CC**(Coordination Committee) : TC/SC議長がメンバー。
TC/SC間のコーディネーションが業務。一定期間活動。
- **SAG**(Strategic Advisory Group): TMBメンバー、MB、
専門家などが役割に応じて参加。限定された期間活動。
どのグループもTMBに報告する。

報告・討議事項 (決議なし)

議題 4.1 温室効果ガス（GHG）プロトコルとの協力の機会

GHG Protocol Cooperation Opportunity

- ISOとGHGプロトコル、双方のエキスパートが共同ブランドとしてGHG規格開発に協力することへの合意に関して討議が行われた

<背景>

- 2007年に、ISOとGHGプロトコル策定の親元である「世界資源研究所（WRI）」及び「持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）」は、温室効果ガス（GHG）規格に関して、協力を促進する覚書を調印していたが、その期限が切れた後にそれぞれ更新され、結果としてユーザーに不利益となる重複や相違等が生じ、連携が取れていない。
- ISO/TC207（環境管理）のリーダーとGHGプロトコルのリーダーは、それぞれの規格を共同ブランドの成果物として収束させることを支持。
- 2024年第2四半期から関連規格（ISO14064ファミリー 規格）の改訂を計画。

<討議内容>

- UNDPとの連携のケースで学んだことを実行すべきであり、時間軸を考え、規格開発前から始めるべき。
- プロジェクトレベルや開発プロセスなど組織のレベルでのギャップ分析が必要ではないか
- 説明会にTC 207/SC 7全員（リーダのみではない）が参加。TC/SCを巻き込んだのは素晴らしい。
- 規格開発プロセスも異なる中、透明性を確保したプロセスであるISOのものに則って開発することが重要。

議題 5.5.1 スマートシティのためのSMB/TMB合同アドホックグループ

Joint SMB/TMB Ad Hoc Group (ahG) on Smart Cities

- 2024年6月の合同会議において、スマートシティのあり方を検討するグループの設置をTMB/SMBで決定
- グループは7月24日に第一回を開催し、スマートシティ規格開発の一貫性確保のためJTC 4の設置が最適解であるという認識で合意
- 11月26日に行われるSMB/TMB合同会合に最終報告書が提案され、結論を出す予定

<背景>

- 6月TMB/SMB会議において、両評議会は、既存のIECとISOの活動からの移行計画を含むスマートシティに対する、例えばJTCのような、より全体的な構造を提案するための、SMB/TMB合同アドホックグループ（JahG）を設立することを決定。
- 7月のJahGのキックオフミーティングにおいて、Smart and Sustainable Citiesとして新しいJTC（JTC 4）を設置することが、スマートシティの分野で全体的な一貫性を保証し、本分野での標準化に対する全体的なアプローチを保証し、専門家の関与を最適化し地方当局などの都市関係者を惹きつけるために最適解であると合意を得た。
- 仏と英から提案されたJTC 4の範囲と構造の第一案が8月のJahG会議で討論された。

<討議内容>

- TMB/SMBからの勧告だとしても、JTCを作ることを承認したということにするのは早計ではないか。
→国際レベルでの議論ではなく、MB投票での議論が必要と理解。

議題 6.1.1 ISO/PC 343 持続可能な開発ゴール管理—アップデート

ISO/PC 343 Sustainable Development Goals Management - Update

- ISO/PC343の2つの成果物をダブルロゴ形式で発行することを目的としたISO/UNDP協力協定について、2024年6月、TMBは理事会へのフィードバックという形で附属書1（TMB留意点記載）をまとめた。理事会はISO/UNDP協力協定を7月に承認。

<附属書 1 : TMB留意点の内容>

- UNDPが賛同することが規格開発の条件となることに懸念。これがWTOの原則やISOの専門家に影響を与える可能性がある。
- UNDPに申し立て権を与えることはリスクがあり、通常の規格開発プロセスが変更される恐れがある。
- TMBはこの協定が将来の先例となるリスクを指摘し、他の組織が同様の条件を求める可能性を懸念。
- 協定の実施においてTCSCとの適切なコミュニケーションが重要であり、ステークホルダーが影響を理解することが求められている。

<討議内容>

- ISO/CSが、TMBの希望に反し、理事会やTCSCに対し協定が承認された件だけを伝えたことは残念。
- ISO/PC 343は、協定もTMBの懸念事項も受け取っておらず、ISO/CSから転送された情報のみ。
- 今回開発するISO/UNDPガイドラインは組織がSDGsを実施する際に補完する役割。ISOがSDGsに寄与していることを広報できるよい機会。

議題 6.1.2 IWA45とPC 348 持続可能な原材料—アップデート

IWA 45 and ISO/PC 348 on Sustainable Raw Materials – Update

- 2023年9月にTMBはISO/PC 348(持続可能な原材料)の設立にあたり、IWA45（持続可能な重要鉱物のサプライチェーン）の報告書の完成を待ち、その結果を踏まえること、及び持続可能な原材料の提案について更なる市場ニーズ分析を実施することを要求し、今回、そのフォローアップとして、討議を行った

<背景>

- このPCはDIN（ドイツ）提案で、「持続可能な原材料に関するEU原則」を出発点として、ESG基準に準拠したサプライチェーン基準を、持続可能な原材料に関する業界のベストプラクティスと調和させることが目的。
- ISO/IWA 45では、以下が報告された。
 - 「上流および中流のサプライチェーンには、ガイダンスや規格を含んだ、多数の既存の持続可能性フレームワークがあり、新しいISO規格を作成する必要はないと判断」
 - 「しかし、サプライチェーンの下流の側面について、既存のフレームワークには、鉱物の埋め込み（鉱物の特定のプロセスやシステムへの組み込み）、循環性、トレーサビリティ、持続可能な鉱物サプライチェーンのラベリング基準等にギャップがあり、これらのギャップを埋めることは、重要な役割を果たす」

<討議内容>

- 10月のPCの総会では、IWA 45の報告書に明確に記載してあるサプライチェーンの上流の規格は市場ニーズがないため不要である点をあらためて認識してほしい。
- PC 348がTMBの決議（76/2023）と調査（市場ニーズ調査）を尊重してほしい。

11.1 次回以降TMB会合の日程、場所、議題

- 次回以降の会議等について

次回 第92回TMB会合@バイーア州（ブラジル）

2025年3月17日～20日を予定

- ガバナンスレビューのWS、Climateに関連したステークホルダーを招待して議論することも検討。

次々回 第93回TMB会合@ジュネーブ（スイス）

2025年6月9日～13日

TMB/SMB合同会合 6月10日

TMBカルタヘナ会合の関連会合

TMBカルタヘナ会合の事前会合

TMB会合中だけでは議論しきれない議題については、事前会合やワークショップを行い意見交換を行い、ほかのTMB議題と同様に、会合中に決議ができるよう準備した。

- Council - TMB awareness session
 - TMB review of standards dev. time KPIs
 - Feedback from technical committees
 - ISO/CS operational efficiency analysis
- TMB事前会合
 - 議題4.1 GHGプロトコルとの連携
 - 議題5.1.1 規格類の最適化
 - 議題5.2.3 ISOオープンコンサルテーション
 - 議題5.3.2 TMBロンドン宣言アクションプラン
 - 議題5.6.1 マネジメントシステム規格に関する合同技術調整グループからの推奨事項
 - 議題6.1.1 ISOPC 343 SDGs ... etc.

TMB通信投票の決議

2024年第90回TMB会議以降～2024年第91回TMB会議まで

● TMB決議 57/2024 ～ TMB決議 71/2024

- 56/2024:TMB 2025年業務計画案の承認
- 57/2024:ガイド 82:2019 規格の持続可能性に対処するための指針 の改訂
- 58/2024:規格類の最適化 (OD) プロジェクト
- 59/2024:社会的責任に関連するリスクの軽減に関する TMB タスクフォース – 最終報告書と推奨事項
- 60/2024:ジェンダー対応規格に関する合同戦略諮問グループ (JSAG) の報告書
- 61/2024:包摂的用語に関する ISO-IEC JAG
- 62/2024:会議マネジメントに関するJTFニューノーマルガイダンス文書
- 63/2024:HAS コンサルタント プロセスに関する ISO/CEN JTF の委任事項の原案
- 64/2024:リエゾン承認プロセス 及び ISO/TC 197/SC 1/WG 1 への GH2 の
カテゴリー C リエゾン申請
- 65/2024:スマート シティ向け IT に関する分科委員会 (SC) の設置に関する ISO/IEC JTC 1
からの提案
- 66/2024:クリエイティブ デジタル デザインに関する TS/P 提案のレビュー
- 67/2024:デジタル マーケティングに関する TS/P 提案のレビュー
- 68/2024:オンライン規格開発 (OSD) 採用
- 69/2024:委員会に TMB への報告を求める
- 70/2024:VF 10/2024 - ISO/IEC ガイド 2:2004 - 標準化及び関連活動 - 一般用語 の改訂
- 71/2024:人工知能 – ガイドライン原案と TMB/SMB 合同グループの設置

● TMB決議 72/2024 ~ TMB決議 83/2024

- 72/2024:ISO/IEC SMART – 専門ポリシーに関する TMB/SMB の貢献
- 73/2024:ISO/TC 6 紙, 板紙及びパルプ の再割り当て
- 74/2024:バイオデジタル コンバージェンスに関する IEC/ISO 合同システム委員会の名称と業務範囲の変更
- 75/2024:ISO/TC 238 固体バイオ燃料 の名称と業務範囲の変更
- 76/2024:TC 議長の任命 (2024年5月)
- 77/2024:ISO/IEC 専門業務用指針第1部, 附属書 B の例外要請 – IEC 82474 シリーズ規格への二重接頭辞 ISO/IEC の割り当て
- 78/2024:ISO/TC 79/SC 1 – 化学分析及び分光化学分析法 の再開
- 79/2024:TC 議長の任命 (2024年6月)
- 80/2024:CASCO 2025年業務計画 の追認
- 81/2024:議長の任期制限 9 年の例外の要請 - ISO/TC 8 船舶及び海洋技術
- 82/2024:廃止投票に対する異議 (2024 年第 1 四半期)
- 83/2024:ISO/TC 347 データ駆動型アグリフードシステムの業務範囲の変更

参考 (ご紹介)

SPCG (Standardization Programme Coordination Group) について

- 2024年6月に会議をオンラインで開催。
- 2024年11月にSPCG対面会合をパリで開催予定。

ISO/IEC/ITUにおいて、内容が重複しているTC (SG) 設置の回避や、3機関が重複した規格開発の結果、機関毎にほぼ同じ内容の文書が発行されることを防ぐことなどを目的に、2019年夏に設置。(日本からは、当初よりTMB委員が参加)

- ①新TC/SGの提案が機関から回覧された際の対応
- ②既存のTC/SG間で重複やその他問題が発生した際の対応
- ③SPCGの責任外の問題(著作権、有償無償問題など)は適宜関連部署へ
- ④SPCGは決定機関(Boards: ISO/TMB, IEC/SMB, ITU/TSAG)に報告
- ⑤SPCGメンバーは、文書へのアクセス権を持ち、規格開発のためにそれぞれの機関の適切な関係者に文書を送付(著作権等の遵守は必須)
- ⑥3組織で実行中の同じような案件のTC/SC/SGのリストの作成(Landscape文書)

どのように広報中？



右のイメージに到達したら、下にスクロール！

SPCG objectives

Coordination of new fields of technical activity:

- Review all new proposals for new fields of technical activity under consideration in, IEC, ISO and ITU's Telecommunication Standardization Sector (ITU-T)
- Identify early areas of common interest (and future challenges) in new standardization activities proposed in the three organizations
- Provide recommendations and mechanisms for coordination, collaboration and joint work to the respective technical boards (SMB, TMB, TSAG);

Official documents and operational information

SPCG Membership [Download ↓](#)

SPCG terms of reference [Download ↓](#)

SPCG Coordination IEC/ISO/ITU-T (Landscape of fields) [Download ↓](#)

SPCG Key performance indicators [Download ↓](#)

SPCG Effective Coordination Paper [Download ↓](#)

SPCG AI/ML landscape [Download ↓](#)

ランドスケープ文書！

Landscape of ISO/IEC/ITU-T existing Fields

Status: 6 December 2021

Field	ISO TCs ¹	IEC TCs ²	JTC 1/SCs ³	ITU-T SGs ⁴ , FGs	Dedicated and other related Coordination
	<ul style="list-style-type: none">TMB	<ul style="list-style-type: none">SMB	<ul style="list-style-type: none">SMB & TMB	<ul style="list-style-type: none">TSAG	<ul style="list-style-type: none">IEC SMB/ISO TMB/ITU-T TSAG Standardization Programme Coordination Group (SPCG)World Standards Cooperation (WSC)Global Standards Collaboration (GSC)
Access Networks, Transport Networks, Optical Networks	<ul style="list-style-type: none">ISO/TC 204 Intelligent transport systems	<ul style="list-style-type: none">IEC/TC 86IEC/TC 100IEC/SyC Communication Technologies & Architectures	<ul style="list-style-type: none">JTC 1/SC 6	<ul style="list-style-type: none">ITU-T SG15ITU-T SG9	<ul style="list-style-type: none">ITU/WMO/UNESCO IOC Joint Task Force to investigate the use of submarine telecommunications cables for ocean and climate monitoring and disaster warning
Accessibility, Human Factors, User Interfaces	<ul style="list-style-type: none">ISO/TC 37ISO/TC 159ISO/TC 173ISO/TC 314		<ul style="list-style-type: none">JTC 1/SC 35	<ul style="list-style-type: none">ITU-T SG2ITU-T SG9ITU-T SG16ITU-T SG20	<ul style="list-style-type: none">Joint Coordination Activity on Accessibility and Human factors (ICA-AHF)
Active Assisted Living	<ul style="list-style-type: none">ISO/TC 314	<ul style="list-style-type: none">IEC/SyC Active Assisted LivingIEC/TC 64IEC/TC 61		<ul style="list-style-type: none">ITU-T SG16	
Agriculture, smart farming	<ul style="list-style-type: none">ISO/TMBG/SAG on Smart FarmingISO/TC 23	<ul style="list-style-type: none">IEC/SMB SEG on Biodigital Convergence	<ul style="list-style-type: none">JTC 1/SC 41JTC 1/SC 42	<ul style="list-style-type: none">ITU-T SG5ITU-T SG13ITU-T SG16ITU-T SG20	

表彰制度の活用

- ローレンス D アイカー賞
- ISO次世代賞
- ISO優秀賞
- 産業標準化事業表彰

2024年 ISO/TC 309（組織のガバナンス）が受賞

参考 <https://www.iso.org/iso-awards.html>

IECには、ケルビン賞、エジソン賞、1906賞がある。

- ローレンス D アイカー賞：優秀なTCやSCの活動に対して、年に1つの委員会に対して授与される賞。自薦他薦問わず、4月末頃までに申請。受賞委員会は、総会で表彰。
- ISO次世代賞：18～35歳までの標準化機関の職員に対して、持続可能性などを踏まえた標準化の経験に基づいて申請。毎年一人が受賞し、6ヶ月のISO中央事務局への出向の機会。（4月末まで募集中）
- ISO優秀賞：前年に出版された規格に携わった専門家個人に与えられる賞。委員会の国際幹事国を通じて、TPM（ISO中央事務局）に提出する。人数などの制限無し。
- 産業標準化事業表彰：国際規格やJIS等の作成、普及・啓発等や標準化を活用した市場創出や社会課題解決等の功績を有する個人・組織を表彰。

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/keihatsu/hyosho/>

ウクライナ・ロシアについて（前回から変更なし）

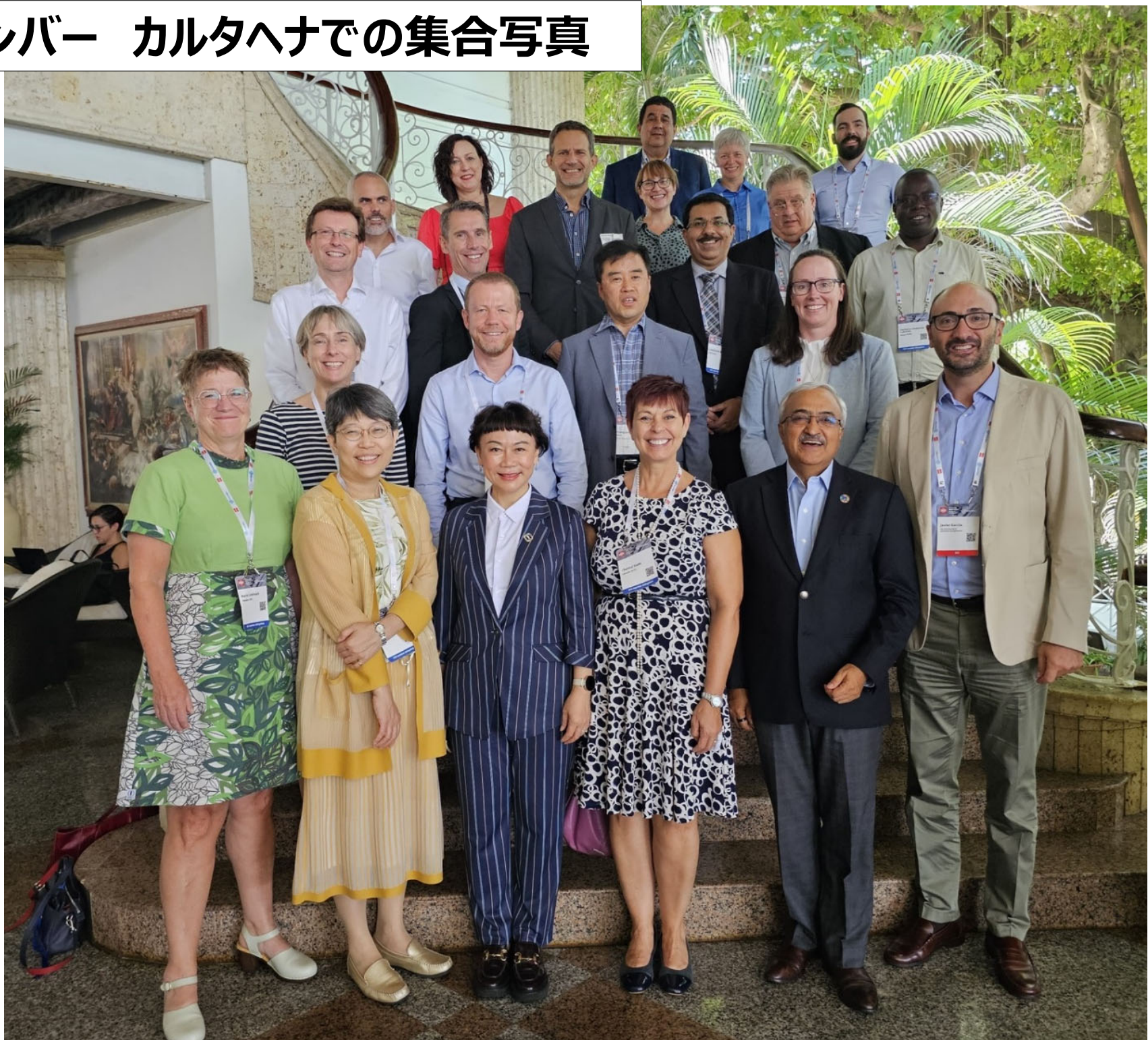
<事務局長からの連絡>

- ロシア**主導**で行われる全会議は通知があるまで延期。ただし、投票用文書の発行、ISO/CSへの原案提出、CIBに関する決議など、その他の委員会活動はすべて許可。

<ロシア主導が以下の場合>

- CM（委員会マネジャー）
 - ・ 更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
 - ・ ロシアの主導ではないWG、AGは通常どおり会議を開催し、活動が可能。
- 議長
 1. CMもロシア：更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
 2. CMはロシア以外：参加者は会議のセッション議長を選出可能。
 3. オプション2.が不可能な場合：ISO TPMによる会議の進行を検討。
- コンビーナ
 1. 会議は延期。但し、他のすべての活動は許可。
 2. プロジェクト期限厳守のために会議開催が不可欠と判断された場合：
 - 親委員会（TC/SC）議長（ロシア以外）が対応 または、
 - WGの専門家が、会議のセッションコンビーナを指名可能。
 3. オプション2.が不可能な場合、ISO TPMによる会議の進行を検討。

笑顔のメンバー カルタヘナでの集合写真



ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html>

日本産業標準調査会ホームページ

<https://www.jisc.go.jp/>